



花みずき



第19期 第5号
 発行者代表 國吉純枝
 編集者 米田節子

主 題 神の力によってキリストと共に生きる

主題聖句 「願いなさい。そうすれば与えられる、あなたがたは喜びで満たされる。」

ヨハネによる福音書 16:24

『キリストはよみがえられた!』

神崎伸牧師(天王寺教会・真生幼稚園園長)



キリストの教会は、女性たちの働きによって支えられ、継続してきました。主イエスの生前、伝道の旅のお世話をしたマルタとマリアは言うに及ばず、主の十字架の出来事を遠くから見守っていたのも、主のなきがらを愛おしみ、こころを込めて葬りの備えをしたのも女性たち。およみがえりの主がまっ先に現れ、声をかけ、出会ってくださったのはマグダラのマリア。彼女こそ《第1の使徒》であると位置づける神学者もいます!(アン・グレアム・ブロック)

あの日、「おはよう」(何と自然で、軽やかなあいさつでしょう!)という復活の主の第一声を聞き、およみがえりの知らせを伝えに走ったのもマグダラのマリアともうひとりのマリアでした。そのほか、無尽蔵に広がる、遣わされた女性の弟子たちの活躍は、枚挙いとまがありません。

ある神学者はこう書きます。「キリスト教説教はイエスの復活から生まれた。事の次第はこうだった。一人の弟子が身を震わせ、突然叫び、驚愕の声を上げた。『キリストはよみがえられた!』そしてその知らせを受けた者たちは歓喜し、聞いた言葉を繰り返すことで完結させ、説教したのである。『あの方は本当によみがえられた!』(リチャード・リシャー)

キリストの復活は、議論することではつかまえません。あれこれ想像することでも捉えられません。ただ、あの日の弟子たち以来伝えられてきた言葉を聞くことでしか、復活は目の前に現れてこないのです。どうか、こころの重い日に、小さな声で、しかしきつぱりと口にしてください。「キリストはよみがえられた!」重い雲が垂れ込める日に、先行きが見えない日に、自分に語ってください。「あの方は本当によみがえられた!」その時に、新しい光が差し込みます。

社会の変化、価値観の多様化と共に、女性会の働きと役割も見直される‘時’にきています。しかし、どんなことがあろうと、私たちはキリスト者として、明るい方を見ていくことができるし、それがゆるがされているのです。たとえばたちや在り方が変わろうとも、女性会の働きがますます必要とされ、祝福されることは間違いありません。

もしも私たちが、私たちの知るところ、信じるところだけで生きるとしたら、それはまだ信仰の醍醐味の半分しか味わっていません。本当に大切なことは、私たちの外側から訪れます。あなたのために、私のために、世界のために、主はよみがえられました。

神崎伸牧師 プロフィール

2007年按手
 知多教会、賀茂川教会・のぞみ保育園を経て現職。
 趣味はたべること。音楽を聴き、弾き、歌うこと(感性が合うものならジャンルは何でも)
 最近、新型コロナウイルスを吹き飛ばそうと、ウクレレを始めました。(テナーサイズの)

備えて生きる その2 「主の山に備えあり」

会長 國吉純枝

緊急事態宣言のさなか、母が94歳で帰天。最後の一週間は病院での面会もかなわず、「いったいどうなっているんだろう？」と、思ったかもしれない。4月20日の早朝、4時前、病院からの電話で飛び起きる。覚悟をしていたとはいえ、「緊急の洗礼」が間に合わないかもと、大慌て。水は不要だったのに、何と、母が使っていたコーヒークップをバッグに入れて車で飛び出す。途中で、いきなりスマホのアラームがけたたましく鳴り出す。起きないとわかっているのに、毎朝4時にセットをしていたのだ。

病院の駐車場には、主治医が待っていてくださり、「今、亡くなりました。」と言われる。病室に入り、穏やかな顔と対面。一瞬、緊急時の洗礼！と思ったが、「いけない。」と思い直し、主治医と当直の看護師さんを前に、主の祈りを口にする。春分の日の前日、中島共生牧師から病床洗礼を勧められた時、緊急時の洗礼の説明を受けていたのに、私はすっかり油断していた。しかし、母の最大の備えは「後のことは、全部あんた（純枝）に任せる」と、常々言っていたことかな？かねてから決めていた通り、厚狭教会で葬儀を執り行っていていただく。遠くに住む息子たち、甥も姪も参加させず、私ども夫婦、妹夫婦、いとこ夫婦、教会の皆さんで、見送る。中島牧師による感謝の葬儀となる。

生まれて以来、ずっと同居していたからかもしれないが、喪失感は意外に大きく、密かに戸惑っていた。母が逝って150日近くがたとうとする時、ある姉妹からいただいた言葉。「お母様と親子にしてくださいました神さまに感謝ですね。」・・・この発想はこれまでの私にはなく、「あっ」と思った。そうだ！そうだよね！と思ったのだ。

「備えて生きる」・・・この言葉は、去年の地区連絡会の時から、ずっと心にある。発題して下さった3地区の皆様にも、感謝の気持ちでいっぱい！また、このような状況だからこそ、これまで以上に、主への賛美をしたいものだ！！

「賛美とは、救い出された者が思慮深く応えていく行為なのです。それはわたしたちの内からわき出るよい感情などではなく、神のよい働きによって引き起こされるものなのです。わたしたちは、よい気持ちになった時に神を賛美するのではなく、神のよい働きを理解した時に神を賛美するのです。」(E.H.ピーターソン著、船本弘毅・比企敦子訳「詩編とともに祈る 365日」9/12より)



びふおー・あふたー

～京都教会より～



- ①教会に行ったきっかけは？
- ②洗礼を受ける前と後で変わったこと
- ③今、こころがけていること

- ①友人に連れてこられた。
- ②何事も神に依頼するようになった。こわがらない。
- ③終活準備。ルター一日一章を読むこと。(老人)

- ①母がキリスト教系の女学校卒で、二人の娘もキリスト教系保育園育ちでした。自然と讃美歌に興味を持ったのがきっかけになりました。
- ②新しい命を生きる喜びと「主がいつも共にいてくださる」そして、最善に導いて下さることを強く意識するようになりました。
- ③神様の愛と恵みを素直に受け止め、健康に気をつけながら歩んでいけたらと思っています。(Y. Y)

- ①両親がクリスチャンなので、小さい頃から家族で教会に通っていました。
- ②幼児洗礼を受けていませんでしたので、聖餐式のたびに心に寂しさを感じていました。受洗して多くの兄弟姉妹と一つになれた喜びに満たされました。
- ③ひたすらお祈りすること、感謝することです。(沼崎素子)

- ①両親が教会に行っていたため。
- ②クリスチャンとしての生き方を意識して生きるようになった。
- ③キリスト者としての修練。信仰の継承に結び付く行動。(谷口恵)

- ①ルーテル教会付属の幼稚園に入ったこと(母に感謝！)
- ②中学3年生のクリスマスに受洗しました。変わったことは・・・人の笑顔を見るのがうれしくなったこと。
- ③この世とお別れする時、みんなに「ありがとう」と言えるように生きること。(A. M)

- ①幼少時、隣の日本キリスト教団の牧師さんのお宅の日曜学校に通っていました。ステンドグラスに憧れ、母にねだって連れて来られたのが、ルーテル京都教会でした。
- ②高校の時に受洗。これから私はいつもまもられるのだ、と思いました。
- ③信ずることです。(N. T)

- ①小学生の頃、母が教会に通うようになり、一緒に教会学校に通っていました。
- ②神さまに守られているという安心が、いつもあります。
- ③日々、感謝して生きること、祈ることです。(O. N)



- ①近くに教会が建った時、誘われた。
- ②人生の目的ができた。
- ③いただいた恵、学んだ聖書の言葉を書いて残しています。(谷口昌子)

- ①60年程前、ラジオのルーテル・アワーを聴いて。
- ②あまり変わりません。
- ③主にお任せして、くよくよと悩まないように努めています。(H. Y)



- ①生まれた時から両親と共に教会へ。
- ②学生時代だったので、自覚と共に重荷も感じた。
- ③教会の方々、またまわりの方々へ寄り添える者になりたいです。(K. L)

- ①以前から来てみたかったところ、沼崎牧師が快く受け入れてくださったため、決心ができました。
- ②洗礼は受けていません。
- ③新しい時代の姿が、これまでより少しでもよくなること。(M. O)

- ①教会付属の幼稚園に通っており、家も近かったので、教会学校に通わせてもらうようになりました。
- ②より深く神様とつながれたような気がします。
- ③毎日、聖書通読表に添って聖書をかかさず読むことと、朝晩の祈りを習慣にすること。(三宅愛子)

《私の信仰生活》

京都教会 三宅愛子

今、私は、京都教会で“みぎわ会”（女性会）の会長を若輩ながら務めさせていただいております。微力ながらも、神様のお仕事に携わることができて感謝しています。

私は母親の連れ子だったため、幼い頃より、母方の祖父母の養女として育てられました。育った家は、築100年以上の五右衛門風呂があるような家で、幼い私には広すぎて怖かったことを覚えています。祖父は、観世流の謡の先生で、いつもお弟子さんが謡のお稽古や、仕舞のお稽古をしに家にやって来るような家でした。

今から思えば、家のあった場所が、私の信仰生活を決定づけた要因の一つかな、と思います。家の目と鼻の先にルーテル京都教会があり、自然と一番近くの幼稚園に通ったのですが、そこそが、教会附属の（今はもうありませんが）白百合幼稚園だったのです。園長先生は、京都教会の牧師で、毎日、神様のお話をしてくださいました。いちばん仲良くしていた友達が、宣教師の息子だったことから、毎週日曜日、教会学校にも自然と通うようになりました。そのころの教会学校は、子どもがたくさんいて、とても楽しかったことを覚えています。

小学校はカトリックの学校で、神様に祈りを捧げる日常は変わることなく続きました。教会学校へも続けて通っていました。

ですが、年を重ね、思春期になると、心が神様から離れてしまうことも多々ありました。高校へ進学する時に将来のことを考え、保育士になって、私が楽しかったように、神様のことを子どもたちに伝えていけたら、と思いました。念願叶い、保育士になり、毎日子どもと一緒に讃美歌を唄えることが喜びでした。今思えば、神様から心の離れてしまった私を、神様はいつも手を大きく広げて待っていてくださったのかな、と思います。

今、私には、小学生の娘と高校生の息子がいます。子ども達が大人になった時、心の拠りどころがある、自分にはいつも見守ってくださる神様がいる、ということだけは、忘れないでいてほしいと思っています。そして、私自身も、感謝の心を忘れず、日々反省を忘れず、神様に見守られている喜びをかみしめ、生活していけたらと思っています。

《びふおー・あふたー 次回は～神戸教会～です！》

第19期役員会の役目

ようやく見えました！やっと分かりました！

それは、西教区女性会役員会の改革です。

→ **役員をやってもいいかな？…と思える役員会にする！**

そのために

※役員について（案）

①役員は「関西地域」と「東西中四国地域」で交代制とする。

西教区女性会規約：「内規2」の変更が必要

『役員は各地区より選出する』→「役員は原則として各地区より選出する。」

②その地域が担当の時には、その地域から4名選ぶ。

③同じ教会から2名出してもよい。

④役員の所属教会の一つを「教区女性会事務局（期間限定3カ年）」とする。

⑤前期役員は、最初の1年間、同じ役目を積極的に補佐する。

→これまでと同様ですが、より明確に。

※仕事内容について（案）

①基本的な行事の計画と開催

「地区連絡会」…年に1回

案：10月の第一、第二、第三の「主日礼拝（土曜/日曜）の午後（午前）」

「花みずきのつどい」（全体修養会）…2年目に開催

案：昭和の日（4/29）

②TNGについては全力で応援する。

全国/教区（地区）での関係行事で、参加者のある教会の女性会は、教区女性会（役員）へ連絡をする。

③連盟へは「年2回の送金（春と秋）」と「会員数調べ（1月～2月）」等がある。

④教区会報「花みずき」は3年間で4～5回発行するが、編集内容の基本を定めておく。

巻頭言…牧師（最初の1ページ）

各地区…各地区の様子

びふおー・あふたーと証言

会計報告（連盟への送金額、教区の会計）

行事報告…地区連絡会、花みずきのつどい、キャンプ参加者からの感想など

役員から…お知らせ等

⑤一斉メール送信

ご意見やご質問など、ご遠慮なく、役員までお寄せください。



会計報告 2020年7月末

皆様のお支えによって「連盟会費等(前期)」納入することができました。緊急事態宣言の中、ご手配くださり、まことに有難うございました。

※連盟会費 214,500 円	会報購読 13,250 円	連盟指定献金 33,200 円
感謝献金 44,500 円	サバ神学生 23,200 円	TNG26,500 円
リストコイン 13,259 円	合計 368,409 円	

※「喜望の家に 47,000 円」「るうてるホームに 21,500 円」送金いたしました。

アンケート(6月~7月)へのご協力、有難うございました

結果は、9月に各女性会長様宛に送付させていただきました。概要は以下の通りです。

(1)地区連絡会について

※年一回、顔と顔を合わせて交流したいが、現状では難しい。

→各女性会の様子、これからの在り方、コロナ禍にあって何ができたかできなかったかの分ち合い、「教会におけるハラスメント防止」の学びなど。

(2)役員決め方について：役員会からの提案 ↓

※「関西地域」と「東中四国・西中国地域」の2地域を考え、交互に役員を出す。

→「従来通り」「交互(案)」「どちらでもよい」というご意見がそれぞれほぼ同数でした。

役員選出について“見通し”があった方がよいと考えています。

→「高齢化や介護、仕事などで役員を引き受けられる会員がなかなかいない。」というご意見もあり、やはり、新しいやり方が求められていると強く感じました。

(3)これからの西教区女性会の在り方について

※地区連絡会は必要。その一方 SNS でつながる。LINE グループをつくる。FACE BOOK などの情報発信…など、新しいやり方も取り入れた方がよい。

※プラスワン運動の必要性はわかるが、現実には厳しい。

※霊的な学び、連盟・教区のメンバーが共に聖書を学び、祈ることの大切さ。

※奉仕だけでなく、魅力ある活動内容が必要。

※(役員について)簡素化できるところは簡素化してはどうか！

※連盟をとおしての支援も、モチベーションをもって参加できるよう、教区としての働きかけが必要。

(4)その他

※TNG 主催のキャンプ等で、キャンパー・スタッフとして参加してきた。女性会からの支援が嬉しかった。ぜひ、次の世代にも引き継いでほしい。

※「多様な性を知るために」が発行(日本福音ルーテル社会委員会)された。お話を聞きたい！



編集後記

いつになったら収まるのかと思いつけて半年以上経ちました。コロナのなかった時代を振り返り求めるのは「ちがう」という気がし始めました。自分を変えて、受け入れていこうと思います。新しい世界と新しい私へと神様が導いて下さいますね。(Y)